

# 「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」

## 提言（案）の概要

### 1. 提言とりまとめの背景・経緯

世界経済のグローバル化が進む中、科学技術や産業をめぐる状況は大きく変化しつつあり、関西文化学術研究都市においても、これからの新たな時代に果たすべき役割を新たに打ち出すべき時期にきている。

そのため、「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」では、これまで4回にわたる懇談会において、これからの時代を展望した学研都市の目指すべき方向性について審議し、今回提言（案）として、取りまとめたところである。今後、広く国民からの意見募集を経て、平成17年3月に開催の第5回懇談会において、提言として取りまとめる予定である。

### 2. これからの学研都市の取り組みの方向性

#### (1) 近畿リサーチ・コンプレックスの中核として新たな学術研究の推進

学研都市は、近畿リサーチ・コンプレックスの中核として、近畿圏全体で取り組んでいる研究開発プロジェクトの推進を図っていくこと。また知の集積を活かし、人類的課題である持続可能な社会の実現に向けた新たな学術研究分野について積極的に取り組むこと。

#### (2) 学術研究機能と生産機能の一体化、産学官連携の一層の推進

新産業の創出を目指し、地域の特性に応じた研究開発型産業施設や生産施設の立地を図っていくこと。また産学官連携や産業集積地との交流連携を推進するため、大学間のネットワークの形成や窓口機能の強化、施設の共同利用などの充実を図ること。さらに中堅・中小企業、ベンチャー企業の立地促進を進めるため、技術・資金等の支援、オープンラボ等の施設の利用促進、人材育成などの支援を行い、地域の産業振興・地域経済の発展につなげていくこと。

### (3) 学研都市発の新たな文化の創造

学研都市では、これまでの高度な文化施設の集積や歴史研究に加え、新たな産業文化や生活文化を含めた幅広い文化分野への取り組みを行い、学研都市発の新たな文化の創造を目指していくこと。

### (4) より世界に開かれた国際的な都市への展開

国際化の著しい進展の中、学研都市が更に発展していくため、中国などのアジア地域をはじめ世界各国との関係緊密化を図り、共同研究や共同開発、海外企業の誘致や国際会議の開催などを行うとともに、外国人が学研都市で快適に居住できる環境づくりなど、より開かれた国際的な都市を目指すこと。

### (5) 多彩で魅力的な創造都市の形成

学研都市は、自然環境や景観に配慮しつつ、活発な市民の交流、賑わいの形成を図り、国際化や観光化にも対応した、多彩で魅力的な創造都市の形成を目指すとともに、一方でパイロット・モデル都市として、都市研究分野での先導的役割を果たしていくこと。

### (6) 学研都市の活動を支える基盤整備のスピードアップ

学研都市の活動を支える道路について、強力かつ迅速に整備を推進すること。また鉄道・バスについて、輸送力の強化、利便性の向上を図ること。一方、事業中のクラスター（地区）について、早期に周辺環境と調和した整備を行うとともに、低・未利用地については、学研都市に適した新たな立地施設の誘導や住宅整備等、有効活用を図ること。

### (7) 本格的な都市活動を支える「都市の建設・運営」の展開

これからの学研都市は、産学官の連携や大学間の連携を促進し、近畿リサーチ・コンプレックスの中核としての機能強化を図るなど、これまでの「都市の建設」対応から、「都市の建設・運営」に重点をおいた取り組みが必要。そこで「都市の建設・運営」を進めるにあたって、近畿全体で学研都市を支える体制や、高度な運営に対する大学・専門家を中心にアドバイザー体制、及び広域的な行政課題等を学研都市全体で一体的・迅速に建設するための新たな体制の確立を図ること。

### 3. サード・ステージ・プランの早期策定

今回の提言を踏まえ、サード・ステージ・プランを早期に策定すること。なお、サード・ステージ・プランの策定においては、幅広く意見を収集するとともに、計画の実効性を確保するための仕組みや体制づくりについて十分検討すること。

# 「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」 提言のポイント

## ① 「基礎研究重視型」から「学術研究機能と生産機能の一体化、産学官連携の一層の推進」へ

### 〈学術研究機能と生産機能の一体化、産学官連携の一層の推進〉

- 研究開発型産業施設・生産施設の立地促進
- 大学間の連携を核とした産学官連携体制の構築  
(大学内のネットワークの形成)
- 近畿リサーチコンプレックスの中核機能の強化  
(産業集積地との交流・連携)
- 連携窓口機能の強化等中枢機構の機能の高度化  
(学研都市としてのリエゾンオフィス機能の強化)
- 中堅・中小企業の支援、ベンチャー企業の育成  
(ベンチャービレッジの建設等)

## ② 「施設整備を重視した文化中枢の形成」から「生活文化、産業文化を重視した学研都市発の文化の創造」へ

### 〈学研都市発の新たな文化の創造〉

- 文化教育機関の機能の強化  
(国立国会図書館関西館の整備充実、平城宮跡第一次大極殿等の復原事業)
- 新たな産業文化の創造  
(デジタル文化振興、メディア・コンテンツ産業創成分野の育成)
- 地域に密着した学研都市固有の生活文化の創造、発展

## ③ 「国内の学術研究の拠点」から「海外に開かれた学術研究拠点」へ

### 〈より開かれた国際的な都市への展開〉

- アジア地域を中心に世界各国との交流連携の推進  
(北京市中関村科技園区との交流推進等)
- 海外からの企業誘致、投資活動の促進などによる学研都市の活性化
- 外国人研究者等の居住や一時滞在のための環境整備

## ④ 「住みよいまちづくり」から「多彩な創造都市」へ

### 〈多彩で魅力的な創造都市の形成〉

- 自然環境や景観に配慮した魅力的な街の形成  
(都市内の景観形成、里山環境の保全や自然環境との共生)
- 研究機関と市民との交流・一体化
- 賑わいのある拠点地区の形成
- 「体験し学ぶ新たな観光」の推進  
(観光ネットワークの形成)
- パイロット・モデル都市の展開  
(テストング・フィールドの提供)

## ⑤ 「交通基盤の整備」から「基盤整備のスピードアップ」へ

### 〈学研都市の活動を支える基盤整備のスピードアップ〉

- 関西国際空港等へアクセスする道路、各クラスター（地区）間を連絡する道路の早期整備  
(特に学研都市連絡道路（一般国道163号）の整備)  
(クラスター（地区）開発に先行した道路の早期整備や未供用区間における代替道路の整備)
- 鉄道、バスの輸送力の強化、利便性の向上
- 事業中のクラスター（地区）の整備促進
- 低・未利用地の有効活用  
(暫定的なイベントや運動施設への活用)

## ⑥ 「都市の建設」から「都市の建設・運営」への展開

### 〈本格的な都市活動を支える「都市の建設・運営」の展開〉

- 近畿全体で学研都市を支える体制の確立
- 大学・専門家を中心としたアドバイザー体制の確立
- 広域的な都市の建設を推進するための体制の確立

## ⑦ サードステージプランの早期策定

- 今後10年間程度を目標としたサードステージプランの策定
- 学研都市建設促進法に基づく新たな基本方針の策定